

「シンガポール派遣参加報告書」

京都大学文学部 4 年 今泉知也

派遣期間中に NUS 及び Yale-NUS の教授による 6 回の哲学のセミナーに参加した。京大生向けにアレンジされたものもあれば、NUS の学生とともに受けるものもあった。内容はそれぞれ認知科学の哲学、数学の哲学、ヒューム、心の哲学、アリストテレス、カントだった。その多くが入門的な内容であり、背景知識がなくてもディスカッションに参加することができた。また、1 回のカンファレンスもあり、京大と NUS の大学院生が発表を行っていた。それぞれが自分の研究の発表を行い、教授や学生から質問やコメントを受けていた。

セミナーで扱われたトピックの中には認知科学の哲学など馴染みのないものもあり、自分の考えを広げることができたと思う。というのも自分の専門でなくとも関連する部分はあるので、学べることは多くあったからだ。特に認知科学の哲学のセミナーは私たちの思考における言語の役割を見つめ直す為のいいきっかけになった。カンファレンスでは海外の学生がどのようなことを研究しているのかを直接知ることができた。また、海外の学生の発表を聞く機会はあまりないので、発表の仕方などがとても参考になり、いい経験ができたと思う。

私は昨年もこのプログラムに参加したのでシンガポールは二度目となるが、それでも新しい発見があった。それはシンガポールの発展速度である。前回から一年しか経っていないのに、様子が変わっている場所がいくつもあった。シンガポールは今や先進国と言っているほど発展しているが、さらに発展しようという向上心が感じられた。また、今年は NUS の学生と交流する機会が多くあったので、彼らとともに行動しコミュニケーションを取ることで、彼らの気質や考え方、価値観を知ることができたのは国際理解の助けになったと思う。

私は来年度から海外の大学院に進学するので、今回の派遣はその為のいい練習になったと思う。一つは海外の大学で主流のディスカッション中心のセミナー形式の授業を英語で受けるという経験を積むことができたことだ。特に NUS の学生の授業やカンファレンスでの発言の様子はとても参考になった。もう一つは海外の大学院に入学するまでの課題を見つけることができたことだ。というのも自分が言いたいことを英語でうまく表現できないということが何度かあったので、入学までに英語の表現力を高めなくてはと思ったからだ。

今回の派遣によって、留学に対する意識が参加前より高まったと思う。というのも留学中に満足のいくパフォーマンスを発揮するためには、基礎知識や表現力の強化など、やらなければならないことがまだまだあることが分かったからだ。この派遣で学んだことを忘れずに、これからの留学準備、そして進学後の留學生活で努力していきたい。